



協会レビュー 2018 年第 3 号

協会での取り組み

足かけ 4 年に渡る聖地巡礼、見事に完走しました！

「都市の『聖地』づくり研究会」活動報告（完結編）

協会レビュー2015 年第 3 号では、当時の関西地区協議会に設けられていた「まちづくり技術交流部会関西」による、「聖地巡礼ツアー」を取り上げました（詳細は協会ホームページからご覧ください）。

約 20 名のメンバーは、平成 26 年から今年にかけて、仕事の合間を縫って関西を中心に 10 箇所の『聖地』を探訪し続けていました。普通であれば歩いて呑んで終わるところを、なんと報告書までとりまとめた、パワフルな活動でした。これが大変読み応えがありますので、皆様にご紹介させていただきます。以下は、研究会の会長を務めた、安井建築設計事務所の杉野卓史様からの報告です。さて、『聖地』とは一体、なんやねん？

（編集チーム 津端）

「旅する研究会」のその後

私たちが聖地づくりの研究を始めてから、なんやかんやで早 4 年。明確なゴールを決めずに成り行き任せでスタートし、当初はとにかく旅に明け暮れていた。前回協会レビューの場をお借りして活動報告させていただいたのは 2015 年の冬。まさに旅の真っ只中であつたその当時、こんな言葉で報告を結んでいた。「果たして研究会は目指す目的地に到達できるのか、あるいは途中で道を見失って天を仰ぐのか。」

その後、案の定私たちは何度も道を見失うことになったが、回り道をしながらもなんとか研究成果を冊子としてとりまとめることができた。今回のレビューはそれをより楽しんでいただくための「読み方ガイド」としてお送りするので、まずは冊子をお手元にご準備いただきたい。

<https://www.toshicon.or.jp/hakko>

上記にアクセス後「報告書」をクリック

報告書の表紙

…何やら漂います



それは聖地なのか、あるいは『聖地』なのか

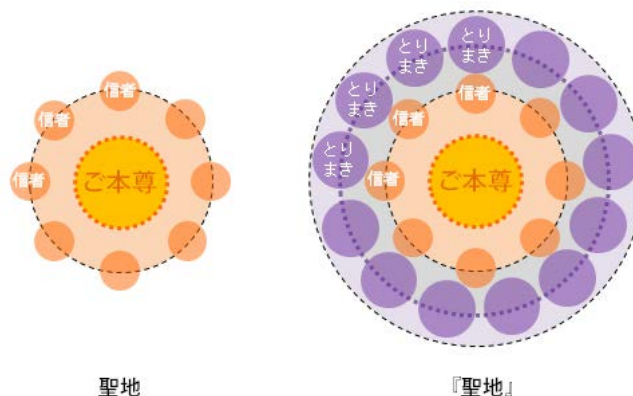
哲学的なムード漂う表紙には、聖地についての真理が凝縮されている。穏やかな表情で佇む右の人物は、いかにも敬虔の念が深そうに見える。一方、見るからに俗っぽい左の人物は、何かを企らみほくそ笑んでいる。この構図は、聖地には2つの種類、あるいは2つの側面があることを暗示している。

2つの聖地については追って詳しく説明するが、私たちは決して左の人物を否定しているわけではなく、むしろ聖地づくりにおける最も重要な側面であると考えている。それはこのイラストのモデルとなった田中良明さん（仮名）の名誉のためにも、あらかじめ明言しておきたい。

この聖地つくったの誰やねん

今回の研究の前提として、私たちは聖地を「つくることができるもの」と捉えている。ただし矛盾するようだが、ゼロからつくることができない。その意味を語る上で、冊子第1章にある聖地と『聖地』それぞれの構造を示したダイアグラムに注目していただきたい。

オリジナルの聖地は、ご本尊と信者のピュアな関係によってのみ成立している。そこは文字通りの聖域であり、安易に手を加えるべきではない。私たちが考える「聖地づくり」は、原則としてこの聖地をそのまま維持しつつ、そこに少しの解釈を加えて「聖地たる所以」を外から見えやすくする。その上で、それをとりまく聖地の2層目の形成を支援し、全体の領域を拡張する。つまり端的に言えば、聖地から『聖地』へと拡張させることが「聖地づくり」の本質である。



聖地巡礼の旅

前回のレビューでも書いた通り、全10回にわたる聖地巡礼の旅は研究会メンバーが持ち回りで企画している。聖地らしき場所はいろいろあるものの、先に取り上げた聖地とタイプが似たものは避けるというルールに加え、回を重ねるごとに探究のレベルを上げなくてはならないという露骨なプレッシャーがあり、担当が後になるほどテーマ設定や聖地の選定に苦悩していた。各担当がとりまとめた旅のレポートにそこはかたなく滲み出る、気楽な前半組と苦悩の後半組の対比



を楽しんでいただくのも一興かと思う。

なお、各レポートには聖地へのアクセスマップや簡単な解説をつけているので、皆さんもぜひこの冊子を手に聖地に足を運んでいただきたい。



まだまだあるでこんな聖地

聖地巡礼の旅の各ページの一番下にあるのは、研究会メンバーの面々からの投稿による聖地コラム。様々な切り口から聖地に関する小ネタを紹介しているので、全10篇を読み比べてみるのも楽しい。

都市の『聖地』づくり7つの極意

このパートでは、私たちが研究を通して学んだことをダイジェストでまとめている。一見相反するニュアンスだが、「極意」と書いて「いろは」と読む。内容は聖地づくりを行う上での心構えや着眼点にとどめているが、本質は捉えていると自負しているので「極意」と称している。一方で今後ここから技術論を積み重ねていきたいとの思いもあるため、「いろは」と読むことにした。ちなみに議論の中で「コツ」はどうかという意見も出たが、聖地を扱うにはノリが軽すぎるという理由で即却下されている。

ところで、聖地巡礼の旅のレポート各ページの右上に謎の文字が並んでいるのにお気づきだろうか。これが7つの極意とさりげなくリンクしていることを、この場でこっそり種明かししておく。

『聖地』をつくろう！ YES/NOチャート

長い月日をかけて研究してきたことを世に生かしたいと思うのが人情ってものだろう。私たちは潜在的に「聖地づくり」を求めている方々を掘り起して接点を持つためのツールとして、この「YES/NOチャート」を作成した。

聖地を扱うにはノリが軽すぎるように見えるが、このチャートには私たち自身の聖地に対するリスペクトが込められている。大前提として、まちで大切にされている聖地があればその関係性を尊重する。そこから『聖地』への拡張を目指すことになれば、まずその方向性について丁寧にすり合わせる。実行段階では一気に最終形を目指すのではなく、一つ一つステップを踏んでじっくり育てていく。もちろん、ステップごとにやるべき仕事は異なる。



あやかろう

そして最後は裏表紙。イラストのタッチも人物のモデルも表紙と同じだが、明らかに違うのは一人しかいないこと。私たちの研究では聖地と『聖地』の違いを意識してきたが、どちらも根底に「あやかりたい」という思いがあることは共通している。つまり、表から見る2人は表情こそ違うものの、裏から本質を見れば同一人物であるというオチとなっている。

4年に渡る取り組みの中で、「聖地づくり」と「まちづくり」は何が違うのかという議論もあった。極論すると、そのまちでの営みに明確な「あやかり」の構図が組み込まれていることが「聖地づくり」の条件と言える。今後そこをより具体的な方法論として突き詰めていけば、まちづくりにおける新たなアプローチになりうるのではないか。現在まちづくりでお悩みの皆様、私たちと共にぜひ、あやかろう。

(株式会社安井建築設計事務所 杉野卓史)

協会レビュー 2018年第3号(平成30年9月発行)

発行元 一般社団法人都市計画コンサルタント協会

〒102-0093 東京都千代田区平河町二丁目二番一八号 ハイツニュー平河3F

Phone 03-3261-6058 Fax 03-3261-5082 E-mail info@toshicon.or.jp

Website <http://www.toshicon.or.jp/>

編集責任者 須永和久